

ゆいだより

～8. 9月の子どもたちの様子～R2. 10春日こども園



<8月誕生会>

「箱の中身当てゲーム」を行いました。誕生児が箱の中に手を入れ中身を当てます。中身は、ぬいぐるみや、じょうろ、くしなどが入っていました。誕生児は触りながら「何だろう?とげとげしているな〜」「ふわふわしてる〜」などと、それぞれに思ったことを言いながら答えを考えていました。難しい問題には、答えが分かるようにみんなでヒントを出していました。正解した時には拍手が上がり、盛り上がった誕生会でした。

<プール>

夏休み明けは、天気の良い日が続き、水の気持ちよさを感じながらプール遊びを楽しみました。ゆり組では「保育者に補助してもらいながら、もぐったり伏し浮きをしたりする」を目標に取り組んできました。上手に出来る子にお手本を見せてもらうと「腕がしっかり伸びていてかっこいいね」「顔もつけられてすごいね」と友達の良いところを見つけてました。それが刺激となり、友達の真似をして頑張る姿が見られるようになりました。また、繰り返し練習していく中で最初は、一瞬しか顔付けができなかった子が徐々に勇気を出して伏し浮きに挑戦するようになりました。できた時には、「〇〇ちゃん頑張ったね」と友達の姿を自然と褒め合う姿も見られました。仲間の刺激を受けながら、喜びを共感し合う姿は素敵でした。



<運動会に向けて>

①組体操に憧れているひまわり組の子どもたちから「ゆり組さんの組体操見せて〜」と言われ「かっこいいところをみせよう!」と一段と気合が入ったゆり組。ひまわり組の前では、表情も変わり気合の入った「ヤー」の掛け声がホールに響きました。最後には大きな拍手をもらい嬉しそうでした。ひまわり組に披露し、「すごい!」「かっこいい!」と言われたことが自信に繋がり、それからの練習もより一層気持ちが入っていました。
②ゆり組の子どもたちからひまわり組と玉入れの対決がしたいと声があがり行うことになりました。当日は、1回戦ゆり1組 VS ひまわり1組、二回戦ゆり2組 VS ひまわり2組、3回戦ゆり組 VS ひまわり組で行いました。対決後にはゆり組からひまわり組へ玉入れのアドバイスをしました。玉の投げ方や始まる前の準備の仕方など自分たちがひまわり組の時に意識して行ったことを伝え、「頑張ってください!」と応援しました。経験したことが受け継がれていく姿を見て心が温まる時間になりました。

今回のひまわり組とのかかわりを通して引き続き異年齢で交流する機会を設けていきたいと感じました。

<9月誕生会>

「しり文字」ゲームをしました。誕生児がお尻で動物や果物の名前を平仮名で書いて、何て書いたのかを当てます。誕生児が相談して書く文字を決めました。実際に始めると誕生児は恥ずかしがりながらも上手に文字を書いたのですぐ答えが当たってしまいました。ゆうや先生もゲームに参加し、問題が難しくなると、なかなか当たらず苦戦していました。笑いがいっぱいの誕生会になりました。



<組体操>

手押し車の経験をして腕の力をつけることから始まった組体操も2学期になり本格的な練習が始まりました。一つの技を覚えるごとに次の技への期待が高まる子どもたち。練習では、どの子も様々な役割(土台、2段目、3段目)を経験し、自分や友達はどこの役割ができるか考えながら練習をしてきました。しかし、その中で思いがぶつかったり、友達を責めたりすることもありました。何度も失敗や成功を繰り返すことでどうしたら次はうまくいくかを自然と声を掛け合い取り組めるようになってきました。運動会当日は、いつも以上に気合の入った表情をしていました。最後の浜名湖大橋ができた瞬間は、ゆり組の思いが一つになりました。一人一人が培った力を発表会でも発揮できるように支援していきます。

<僂倅>

スイミーの物語に出てくる海の生き物(うなぎ、伊勢エビ、クラゲ、岩、スイミーの仲間)をみんなで作りました。「クラゲは色んな色でカラフルにしたいな〜」「岩はごっこつしているから大きく作ろう」など絵本をよく見て作る姿がありました。スイミーの仲間は牛乳パックで一人一匹作り、思いの詰まった魚が出来上がりました。練習では、上手く友達と息が合わず思うように岩を運ぶことができなかったり、一人で自分勝手に行ってしまったこともありましたが、練習を重ねていくと互いに声を掛け合い、力を合わせて行うようになってきました。